

町長 明星ヶ丘の施設は、日吉地区の文化発信の拠点として整備され、目を見張るばかりのすばらしい内容で整備されている。施設を通して先人の功績や、個性ある歴史や文化を伝承していくだけでなく、心豊かで感性に富んだ人づくりを行っている。子どもたちは、昭和61年から日吉小学校で引継がれている「武左衛門太鼓」のように、「武左衛門一揆」を1つの物語としてとらえ、事の成り行きを、子どもたちの心のもった口上と日頃より鍛えた太鼓の演奏により、人々の心を捉えることはもちろんのこと、自分たちの祖先の偉業を改めて感じ取っている。合併に伴い「明星ヶ丘施設」を幅広く住民に知っていただくため新しいパンフレットを作成したことで、町内の各家庭に配布するとともに、広報等も利用して周知を図る。

構想の練り上げ、様々なイベント、ボランティアなど住民の参加をどう図っていくのか。

町長 日吉地区の最大のイベントである「武左衛門ふるさとまつり」のように、公民館を中心に、各分館、一揆を起こす会、婦人部、その他各種団体等のご協力をいただき、各種イベントの実行委員会を充実し、住民の方々自らの参加を促して行きたいと考えている。

武左衛門一揆行列の吉田・宇和島藩への拡大について。

町長 平成6年7月に宇和島市の八幡河原に400人の同士が勢揃

いし、日吉の明星ヶ丘まで「武左衛門一揆行列」を実施している。しかし、日吉から宇和島までの距離は遠いうえに、実施要望もその後あまりなく、実施が遠ざかつている状況にある。今後、生活文化若者塾「日吉一揆を起こす会」等を中心に十分協議のうえ、検討したい。

駐車場進入路の拡大について。

町長 幅員が狭い上に両側には住宅が密集しており、改良を実施するには関係者の承諾と、それ相応の事業費が必要となるため、現実的には実施は困難である。今後の対応は、大型バス等の駐車場は、国道197号線から日吉支所への入り口両側の駐車場を利用して頂くよう、お願いをしたい。

〈過疎対策、少子化対策、団塊世代対策について〉

過疎対策、少子化対策として本町で対応する方途について。

町長 本町では、合併前から全域が過疎地域の指定を受けて、各種対策を講じてきたが、過疎対策の決め手ともいえるべき雇用対策は、第1次産業の長期低迷はもとより、宇和島・北宇和管内の雇用情勢は、直近一年間における月平均有効求人数は1,282人、同じく月平均有効求職者数は2,227人で有効求人倍率が0.58倍と全国の0.95倍や愛媛県の0.83倍に比べて、極めて低水準にあり、加えてパート雇用や季節雇用が多

くを占め、雇用の受け皿に乏しいため、若年者の地域外への流出が続いているのが現状である。町としても地道な努力を続けており、平成16年に「広見スチロール工場」の誘致を実現し、従業員18名で操業を開始している。今後も中央への情報発信に配慮しながら鋭意努力を重ねたいと考えている。「鬼北町長期総合計画」や「過疎地域自立促進計画」等の各種計画を基本として、その具現化を着実に実行することが過疎対策につながるものと考え、実現に向けて積極的な取り組みを行きたい。

次に少子化対策については、国・

県の制度に乗った乳幼児医療費助成、児童手当の支給などの経済的支援のほか、本町の特長として、保育所設置数が類似団体と比べ2倍近く多いことでの保育体制の充実や早朝、いのこり保育の実施、母子保健事業として妊婦を対象にした「母親学級」、保育所未入园児の親子対象の「親子教室・育児サークル」の定期的開設や学校給食の安全対策として地元産の減農薬米及び野菜類等の助成事業などきめ細かい対応をしている。

団塊世代への就農希望の掘り起こし対策について。

町長 今回の「長期総合計画」及び「近永アルコール工場跡地活用委員会答申」にも団塊の世代の定年帰農等の対策を「絶好のビジネスチャンス」ととらえ対応することと示されており、積極的な取り

組みをしたいと考えている。なお、取り組みに際しては、先進地の事例を参考に検討する。

きじ肉のブランド化について。

町長 現在、熟成・急速凍結・長期保存の3つの技術を組み合わせた特許出願中であり、合わせて商標登録も申請中である。外国産及び他産地との差別化を行い、健康食品としても広く全国的に浸透することがブランド化を確立することになり、それに合わせたロゴマークを宣伝することになっている。また、町内の販売促進等についても大変重要なことであり、現在、道の駅又はイベント等での販売を行っており、きじ鍋セット・きじ飯セット・デリカ商品等手軽な商品から本格的な従来の肉製品まで商品構成も多様化しているが、尚一層商品開発に力を注ぎ手軽な商品の開発が必要であると考えている。

〈国道320号線改修の進捗状況について〉

水分地区測量の詳細について。

町長 現在行っている測量は、当初計画していた路線の線形、幅員の一部修正のための測量であり、平成18年度からは水分集会所付近の用地を取得すべく計画しており、愛媛県では用地取得完了後、改良工事に着手すると聞いている。

水分バイパス計画の進捗について。

町長 現在の測量が終了後、宇和島地方局道路課において、引き続き地権者との協議、交渉を実施す